

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和2年8月20日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## 1. 本園の教育目標

「心身ともに調和の取れた発育・発達と健全な人間性の基盤をつくる」  
「強く かしこく たくましい 感性豊かな 思いやりのある子の育成」  
望ましい子どもの姿  
「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする子」

## 2. 本年度重点目標・計画

教育課程を見直し改善を図る……幼稚園教育要領をふまえ、園の教育方針・教育目標に従って教育課程の編成にあたる。指導計画に基づいて計画的に保育を進め、振り返りや反省を行う。  
教職員の資質向上（研修・情報共有等）……子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う。公開保育を互いに見合い、子ども理解を深め指導力の向上に努める。  
特別支援教育のための園内支援体制を整備する（家庭との協力・連携も含む）……支援を必要とする子どもの特性を理解し、一人ひとりに応じた関わりを心がける。  
安全管理体制の強化……子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	<ul style="list-style-type: none"><li>指導計画(年間・月間・週・日案)に基づいて計画的に保育を進めており、年齢ごとに子供の姿や教材情報を共有をしながら保育を展開している。</li><li>週案などで、日々保育の振り返りを行い、次に生かせるようにしている。</li><li>保育部と幼稚部との接続の在り方を考え、2歳児の発達にそった生活や活動を満3歳児にも取り入れ、計画的な指導を実践することができた。</li><li>地震発生時の避難行動を見直し、主体的な避難方法を計画し改善している。</li></ul>
2	教職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	<ul style="list-style-type: none"><li>保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づく研修会に意欲的に参加している。</li><li>公開保育を実施し、教育・保育を研究している。日々の教育・保育の反省や振り返りを通して先生たちが互いに学び合うことができ、スキルアップできている。</li><li>客観的な視点から、先生一人一人がコミュニケーションをとりあい、日々の子どもの姿について意見・情報交換をしている。</li></ul>

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を工夫しながら、保護者と連携し子どもと一緒に育てていけるようにしている。</li> <li>保護者との面談後は、報告会を行い、支援や援助の計画を立てるようにしている。</li> <li>小学校との接続カリキュラムを勘案し、必要に応じて引継ぎ支援シートを作成している。</li> <li>全教職員が職員会などを通して、情報を共有し子供への支援を行うようにしている。</li> </ul>
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時や緊急時に際して、自己の役割を各教職員が意識し、訓練時には確実に実践している。</li> <li>遊具や用具などの点検を行う等、安全な環境作りに務めている。</li> <li>月1回避難訓練と減災意識の指導を実施しており、子どもたちの安全に対する意識や行動も育ってきている。</li> </ul>

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にした質の高い教育・保育を実践することができたとし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

#### 5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	反省点を見つけることでより良い保育ができるようにしていく。反省や課題を気軽に口に出して相談しあえるようにしていきたい。教職員像を共通理解できる様に具体的に文章化すると分かりやすいと思う。教職員間での話し合える場を持つ職員会などを持ちたいと思う。ピアノの上やたなの上に物があることがあった。環境整備が少なくてできなかったところがあった。育てて欲しい姿を思い描き、それにそった保育計画をしていきたい。保育計画を立てたり、実践したりと考え直していきたい。日々の保育、保育環境について、常に振り返り、見直していくことを続けていく。保育方針が定まり、実践につながるような教職員のサポート体制をつくりたい。
		研修会等の共有化だけでなく、各クラスで行ってみて楽しかった保育の方法について話す場を作っていく。若手の先生や園での勤務年数が少ない先生の意見や考えを、もっと自由に発言できるようにする。今年は公間保育の時期が3学期に集中してしまったので、園内研修の年間計画を4月の時点でしっかりと立て実施する。自園のねらいにそった内容を子どもたちがどの程度達成しているかを意識した実践活動と評価を行う。子どもと生活する中で遊具や絵本等についても、もっと子どもの意見や思いを引き出し、活動を共に作り出していく。
		一人一人の子どもの性格や特性を把握し、発達段階を踏まえた教育・保育活動を、全教職員が協力して探っていく。地域の人的・物的資源を活用しながら、指導計画の立案や指導を行うようにする。
		園庭の固定遊具、スクーターや三輪車等の遊具の点検ができていなかった。災害だけではなく、不審者対応についても訓練し、備える必要がある。地域との連携をどのようにするかを、これからも話し合っていく必要がある。

## 6. 学校関係者の評価

高知市立神田小学校校長……園舎・園庭が新しくきれいになりとても気持ちがいい。また、隅々まで掃除が行き届いていることや、教室の壁面装飾など環境整備が素晴らしい。先生方の努力の様子が良く分かります。幼児教育と小学校教育とでは指導の理念や方法など違いがありますが、連携がとれて滑らかで確実な接続ができていると感じています。特に特別な配慮を要する子について、就学時引継ぎ支援シートを作成していただき連絡が密に取れていることを嬉しく思っています。さらに、幼稚園において小学校入学後の生活や指導内容を見据えた経験を取り入れたり、小学校において幼稚園の経験を生かした指導をしたりすることで、保・幼・小の教育をつなぎ、子どもの学びと育ちを積み上げていきたいと思っています。これからも協力よろしく願います。

後援会長……杉の子幼稚園の先生方は、いつも笑顔とさわやかな挨拶で明るく迎えてくれます。温かい雰囲気のもと、きめ細やかな教育をしているのは、目には見えなくても来園すれば肌で感じるすることができます。先生方がたくさんの研修を積み、子どもたちのためにいい教育をと、力を尽くされていることは何より嬉しいことです。また、たくさんの行事は、先生の思いや園の意図がいっぱい詰まった素晴らしいものです。年長になると、よさこい鳴子りや鼓笛隊、発表会、作品展等、行事や集団生活を通して子どもたちの成長がよくわかります。先生方が子どもたちに寄り添って丁寧に指導していただいていると感じることがたくさんあります。信頼できる大好きな先生方やお友達がいるこの環境が、とてもありがたいです。保護者も心から信頼して子どもを預けています。

評議員……昨年度、園舎・園庭・温水プールとすべての新築工事が完了し新生「認定こども園杉の子幼稚園」が誕生した。最新の設備の整った環境を生かし、更に杉の子幼稚園のブランド力を高めていただきたい。今年度、全ての評価項目で高い評価を得ているのは、先生方の日々丸となつての努力の賜物だと思う。心より敬意と感謝を申し上げたい。未就園児園庭開放や子育て支援事業（どんぐり広場・子育て相談）等、地域に開かれた幼稚園として、様々な取り組みをしていることは大いに評価できる。また、ケアハウス誕生会での高齢者との交流は、自分たちが行くことにより高齢者に喜んでもらえることで「自己肯定感」「自己有能感」が芽生えることになり、有意義な活動だと思う。ぜひ続けていただきたい。これから少子化社会を迎えるに当たり、選ばれる幼稚園として杉の子ブランドを高める必要がある。ここに通わせればまちがないと思っただけの顧客満足度ナンバーワンを目指していただきたい。そのために自園の魅力やアピールポイントを発信するとともに、保護者が園に何を求めているのかを真摯に受け止める姿勢が大切である。歴史と伝統をほこる杉の子幼稚園の良さを大事にしなが、新たな取り組みにも挑戦し、更なる向上を期待している。

あたご幼稚園園長……教育課程の改善・職員の資質向上・特別支援教育等。本年度、多くの事柄に取り組み、実践と反省を繰り返しながら、前進してこられた様子を感じました。とても素晴らしいと思います。私は、学校評価（自己評価）について、やり方を間違えれば、危険につながると考えています。ともすれば先生方を自身の内側に向かって追い込んでしまうようなことになりかねないからです。過去に努力義務を課したことが、パフォーマンスの低下となる失敗を何度も繰り返していました。その反省点に気付いたのが、他ならぬ自己評価でした。私たちは、長い間、何の躊躇もせず、自分を追い込むことに専念していましたが、現在はガラリとかわり、コンセプトは「仕事を楽しむ」です。その中に「評価を楽しむ」があります。方法は各園独自ですが、どの園も目指すところは「質向上」です。そのために、欠かすことができないのは、「園のよさ」「このスタッフで仕事する強さ」など、持っている力を明確にすることです。現在の良さを全体で共有することで、まずは自信を持つこと。次に、さらに良くしていくためには、何が必要か？を考えていくこと。この2点さえ、しっかりとすれば、後は、時々きりの良いタイミングで、振り返りながら、その都度、成果を確認すればよいと思います。この振り返りは、職員全員からどんどん発言があるような場にする工夫が必要です。コツとしては、最初に明らかにした「良さと課題」を軸とすることで、園長先生が描く理想と各先生方が担当する現実とが、調和しやすくなると思います。そこで、お勧めしたいのは、多くのカテゴリーに挑戦するのではなく、今年取り組めそうなことを、一点に絞ることです。それを抽象的な言葉で表しておきます。例えば、「発達を考える」といった重点にしておくと、先生方は、多くの場面で発達を意識します。対応に困る場面に遭遇した時や、理解できないような行動を目にしたとき等は、「一旦発達の視点に戻って考えてみましょう」という共通の営みを続けていくこととなります。そのうち園内は、発達についての話題が盛んになります。話題に花が咲けば、次第にその営みが、先生方には楽しいものとなります。それぞれの実践を出し合いセッションするうちに、発達理解が進み、教育課程の文言が現実と繋がっていきます。年度末に振り返った時、楽しかったこと、やってよかったことが、たくさん出てくるように進めていくことが、幼稚園運営に求められるマネジメントであり、そこで先生方から出てきたたくさんの思いこそが、学校評価（自己評価）であると考えています。